
■ 第 22 回福祉社会学会大会 プログラム
2024 年 6 月 29 日 (土)・30 日 (日)
会場：津田塾大学 (千駄ヶ谷キャンパス)

◇第 1 日目 6 月 29 日 (土曜日)

- 10:30-11:30 研究委員会 【SA316】
11:30-12:45 理事会 【SA313】
12:30 受付開始
13:00-15:30 自由報告/20 周年記念テーマセッション

【第 1 部会】 地域福祉と家族のケア 【SA202】

司会：佐草智久（日本福祉大学）

1. 地域子育て支援拠点におけるケアの循環とケアの多層性に関する一考察
松村智史（名古屋市立大学）
2. 地域福祉活動の参加と家族のケア責任の動態—住民の生活史調査に基づいて—
松端祐介（京都大学大学院）
3. 地域運営組織における住民主体の醸成に関する考察—きっかけづくりから人材育成まで—
鈴木美貴（立正大学）
4. 男性の育休取得を阻む要因に関する考察—当事者への半構造化インタビューから—
奥田祥子（近畿大学）

【第 2 部会】 「支援」再考 【SA201】

司会：中根成寿（立命館大学）

1. 放課後等デイサービスにおける支援者の論理構造—複数の論理の併存と今後の可能性—
白石恵那（東京大学大学院）
2. 「療育」と「発達支援」概念の変遷
○江頭早紀（津田塾大学大学院）・柴田邦臣（駒澤大学）
3. 居場所づくりに対する「支援」概念の差異—校内居場所カフェをめぐる関係者の語り—
中西美裕（大阪大学大学院）

【20周年記念テーマセッション】 『福祉社会学文献ガイド』 出版記念企画 【SA207】

当学会 20 周年記念事業の一環として、『福祉社会学文献ガイド』が刊行された。本書の企画趣旨を改めて振り返るとともに、実際に刊行されてからの活用方法、大学院生の側での受け止め方などを踏まえ、今後の福祉社会学の広がりについて展望する。

コーディネーター：高野和良（九州大学）

司会：寺田貴美代（新潟医療福祉大学）

登壇者：亀山俊朗（中京大学）

上村泰裕（名古屋大学）

桜井政成（立命館大学）

染谷莉奈子（日本学術振興会）

馬場智也（名古屋大学大学院）

15:30—15:45 休憩

15:45—17:45 自由報告

【第3部会】 貧困と子ども 【SA202】

司会：岩永理恵（日本女子大学）

1. 子どもの援助要請に対する貧困の効果—なぜ子どもたちは困難を抱えても他者に助けを求めないのか—
赤城拓（京都大学）
2. 生活困窮世帯における食の「質」—市民による食の支援からの考察—
堀部三幸（上智大学大学院）
3. 子どもの剥奪と母親の剥奪の分析—子どもは「守られて」いるのか—
阿部彩（東京都立大学）

【第4部会】 高齢者と地域 【SA201】

司会：西野勇人（東日本国際大学）

1. VR 回想法により地域コミュニティにおける認知症高齢者への理解の促進するアート実践—地域コミュニティと認知症高齢者との橋渡しの役割を果たすアート実践の研究—
大村直子（東京藝術大学大学院）
2. 福祉有償運送は移動困難者の課題を解決したのか
畠山明子（星槎道都大学）
3. 終活をめぐる支援事業の促進に関する研究—基礎自治体を対象とする質的調査から—
白石敦子（立教大学）

18:00— 懇親会 【1階カフェテリア】

*カフェテリアは、1階、正面玄関からホールを通り抜けた奥にあります。

◇第 2 日目 6 月 30 日 (日曜日)

午前の部

9:00 受付開始

9:30-12:00 自由報告

【第 5 部会】 障がいと社会 【SA202】

司会：山村りつ（日本大学）

1. ある併存性障害者支援事業所における生活経験—併存性障害のある人のアジール？—
相良翔（埼玉県立大学）
2. 「媒介子」としての精神疾患—「病気の治療」から「関係性の変革」へ—
竹端寛（兵庫県立大学）
3. 重度訪問介護成立に際して働いた力学—公共的相互性の下で起こったこと—
高阪悌雄（青森県立保健大学）
4. 障害者政策への支持—社会的属性に基づく説明の限界と可能性—
池田裕（法政大学）

【第 6 部会】 福祉政策と社会学 【SA201】

司会：堅田香緒里（法政大学）

1. 戦後日本における「生活者」のニーズ分析—国会会議録の計量テキスト分析—
堀祐輔（立命館大学大学院）
2. 地域福祉の「政策化」と福祉社会学研究—メタガバナンスの社会史を捉えるための試論—
中野航綺（日本大学）
3. ボランティア活動参加者の経済的メリット—パネル調査（JLPS-YM）の分析から—
伊藤理史（京都産業大学）
4. サービスラーニング型授業での再帰性実践の可能性—社会学的想像力の涵養を目指して—
桜井政成（立命館大学）

総会・昼食（12:15-13:15） 【SA305】

午後の部

13:30-16:30 シンポジウム

「人が生まれ育つのを社会的にどう支えるか——こども家庭庁の創設をうけて」【SA305】

司会：山下亜紀子（九州大学）・畑本裕介（同志社大学）

討論者：土屋敦（関西大学）・相馬直子（横浜国立大学）

【第1部】

企画趣旨説明

解題

畑本裕介（同志社大学）

1. ヤングケアラー支援が提示するもの—“大ごと”にならないサポートの仕組みをどう作る—
澁谷智子（成蹊大学）

2. 子どものためをめぐる磁場—社会的養護の現場と理念から考える—
安藤藍（千葉大学）・川瀬信一（一般社団法人子どもの声からはじめよう）

3. 「こどもまんなか」社会と若者—誰が、どのように「まんなか」に位置づけられるのか—
岡部茜（大谷大学）

【第2部】

パネル・ディスカッション

【大会の参加方法・要旨集および配布資料の入手方法】

・本大会は、対面開催です。また、参加費については事前徴収のみとさせていただき、当日の窓口でのお支払いは受け付けておりませんのでくれぐれもご注意ください。つきましては、ご参加される方は期日までに所定の口座まで参加費をお振り込みいただきますよう、ご協力をお願い申し上げます。

・要旨集は、印刷物としては配布いたしません。学会公式サイト (<http://www.jws-assoc.jp/>) にて大会1カ月前を目途に掲載いたしますので、事前にご自身でダウンロードもしくは印刷してください。なお、ダウンロードしたファイルを読むためのパスワードは、福祉社会学会 ML にてお知らせいたします。見逃さないようご注意ください。

・各報告の配布資料は、事前にクラウドにアップされたものについては、事前にご自身でダウンロードもしくは印刷してご持参ください。クラウドへのリンクは、大会前日までに ML にてお知らせいたします。

・建物内での Wi-Fi の利用については、eduroam 利用資格を持っている他大の方は、本学の無線 LAN を利用することができます。それ以外の方は、携帯用 Wi-Fi ルータをご持参されるなど、各自で Wi-Fi 環境の確保をお願いします。

<eduroam 利用方法>

- ・無線 LAN の一覧で「eduroam」を選択します。本務校のアカウントとパスワードを入力します。
- ・設定値（Android 端末利用の場合、以下の設定が必要になることがあります）

EAP 方式：PEAP

フェーズ 2 認証：MSCHAP2 または MSCHAPV2 を選択

CA 証明書：「システム証明書を使用」または 所属機関から指定された内容を設定

ドメイン：所属機関から指定された内容を入力（例：津田塾大学の場合は「tsuda.ac.jp」）

クライアント証明書（ユーザ証明書）：N/A または指定なし

・今回はお弁当を各自でご用意いただく形になります。とりわけ2日目は昼休みに総会が開催されますので、あらかじめご昼食をご持参いただきますようお願い申し上げます。（1Fのカフェテリアは、大会両日とも営業していません）。

【会場案内】

津田塾大学千駄ヶ谷キャンパス 〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷 1-18-24

(主要路線からのアクセス)

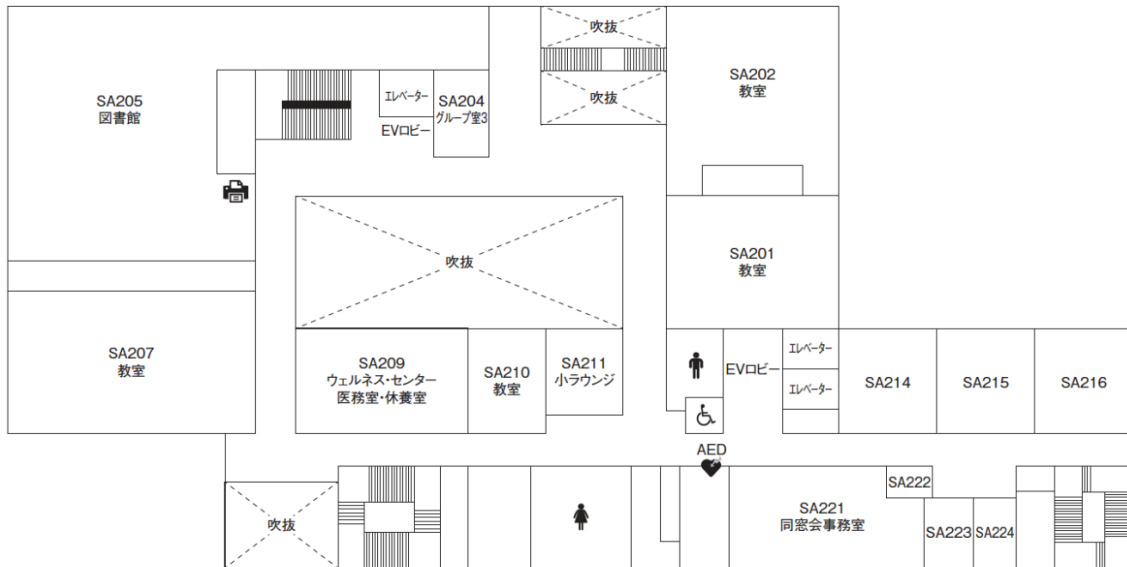
JR 総武線・中央線 千駄ヶ谷駅下車、徒歩約 1 分。

都営地下鉄大江戸線 国立競技場駅下車、A4 出口より徒歩約 1 分。

東京メトロ副都心線 北参道駅下車、徒歩約 10 分。

受付、懇親会会場は 1 階、委員会・総会・シンポジウム・部会等は 2 階、3 階です。

2 階



3 階

